

物質色で花よりも芽に近く果実になるにはまだ青くしっかりした根とともに堅い種の所有するかすかな前兆をみつめて暮らす。
なにかそのような物質が観えてきた場所から、物体を採集し組み合わせ、刃物で削る。彫れなくなって手が止まる時には描写もする。
意識空間としての地方的、極私的な場所を見つめている。土地台帳の閲覧でしか知る事のない地域の中の、やがて消えていく小字（こあざ）の名のついた狭い土地において為されている、口碑にもならず遺構も残らない私の身辺に対する営みである。

「見るべき程の事をば見つ。」

平安時代の末期、壇ノ浦の戦いで平知盛（1152～1185）は、最後にこのように言って自害したと平家物語で延べられている。見る事と全生命が、分ちがたく五分と五分とに透き徹るような言葉に感じるの、物語として語られているためだろうか。

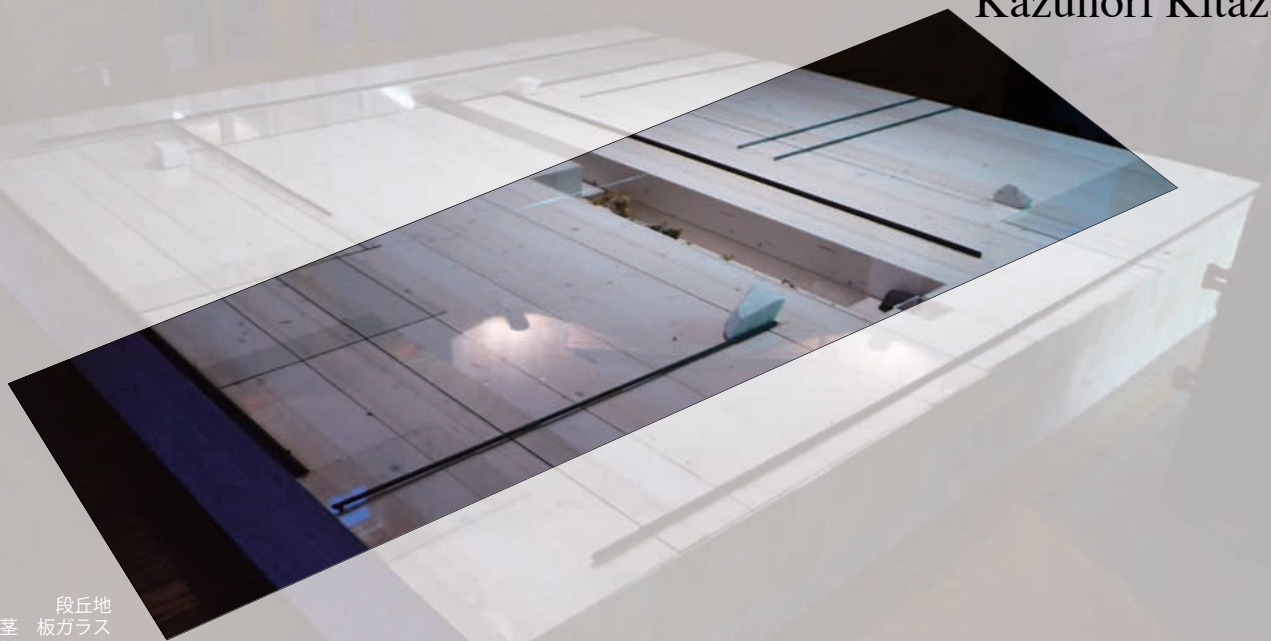
ある土地に、自分を受け入れる余地のない場所があるということは、どんなことをしても、突破することのできない垂直の壁を見ているような幻滅した気分がする。だが、壁の向こう側では、そのような私の事は考えていないのかも知れない。

人の一生に対する見方考え方、世界観、哲学、土地の記憶、地域の歴史、霊的な場所と情念領域についての世界観が、具体的に空間にさしだされ、おそらく凶敗でありながら、その広がり的情感に従うという精神の具現者が、綺麗な言葉の語り部だとするならば、『見るべき程の事をば見つ。』という運命を確かに私は観たのだと感じてしまう。そして私は、その土地の地勢に触れながら、思考はすこし浮いて想念に縛られない境界に立ち尽す。

綺麗な言葉の前で、限りなく灰色の言葉である思考回路は、土地係争と同時期に、大切な人々との離別から生じたと思われる。けれども、そのように書いてしまう己自身もまた綺麗な修辭で発言の粉飾しているのではないかという自己否定の念を、私は制作と、場所への眼差しによって保とうとしている。

この綺麗な言葉に立ち向かうにはいくつもの方法があり、さらに克服するにはさまざまな方法がある。そして、そうした方法のいずれもが、それらの言葉を封じ込める唯一の道は、己自身が意志を持って、今ここで、自身内部の、そのような言葉の頭われを窒息させる事だ、という真理の一面を示しているだけにすぎない。

Kazunori Kitazawa



段丘地

角材 砥石 植物の茎 板ガラス
320cm×320cm×35cm
布置する物質誌

綺麗な言葉によって黙殺されるという事態を受けとりつつ、黙殺の槍のひと突きから、自滅を防ぐものは何であるのだろうか。

私は、綺麗な言葉の由緒と根拠を調査して、その真性の不正をひとつひとつ暴く事が、私の自滅から再生へむかう出口のひとつだと考えてきた。

ある種の不完全な物が、何かの意味の動機づけによってかけがえのない物になるということ、神秘主義的な秘術だと安易に答えるわけではない。また、手負いのシャーマンが、何かの物体に意味と物語を付与する事で、治療者の治療に関わったとしても、神秘主義的な秘術だと安易に断定できるわけでもない。

私は、それが起こる事は知っている。しかし、どのようにして起きるのか、私は知らない。

「善良な人がみずからの意志で他人の邪悪性に刺され・・・それによって破滅し、しかしなお、なぜか破滅せず・・・ある意味では殺されもするが、それでもなお生きつづけ、屈服しない、ということを私は知っている。」（『平気でうそをつく人たち』M・スコット・ペック 草思社 p330）

物質誌。鉄の断片、鳩の羽、花の種子、水晶、・・・。

本来、物には意味はない。しかしなお、なぜか破滅せず、いくつかの言葉がふさわしい必要性によって発見され、語られて行く。

それゆえに、妙な言い方が彼等の情念から受けとった打ち身の痣のようなものは、これからも消えないだろう。

ナガノオルタナティブ - プリベンション -

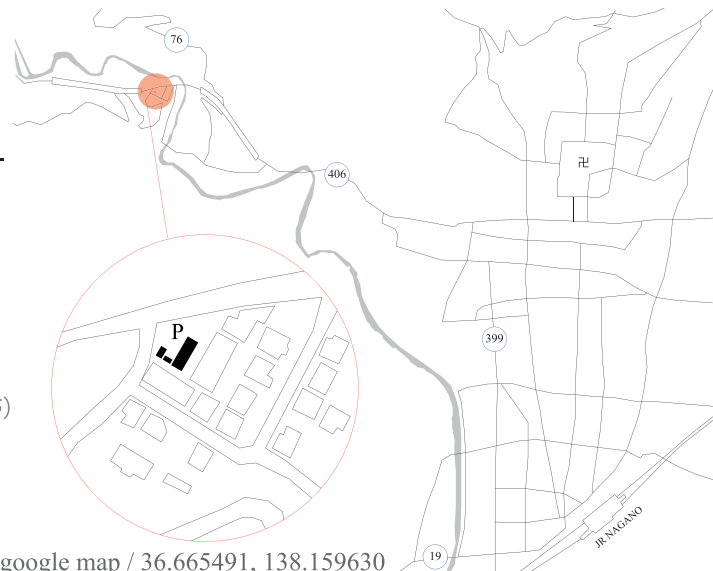
北澤一伯 展 - 「場所の仕事」 -

2017 11/6 mon ~ 公開セッティング ~ 12/9 sat

*作品セッティング完了は、公式サイトなどで告知します。

*13:00~16:30 ¥500- (公開セッティング中は無料)

- ▶ 2017 12/9 SAT ・ 14:00~ ギャラリーアーティストトーク
- ・ 15:00~ クロージングパーティー
- ▶ お問い合わせ 080-5514-6063 (町田携帯) ・ 090-9359-6167 (モリヤ携帯)



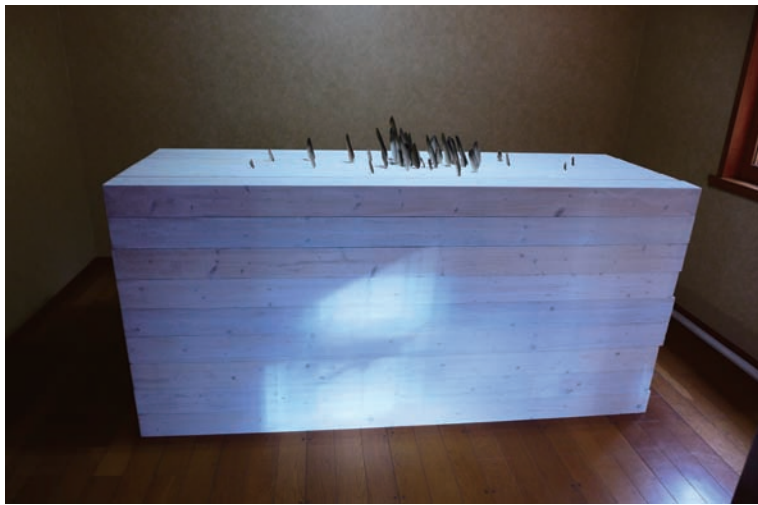
<http://flatfileslash.com>
galler@flatfileslash.com

FLATFILESLASH / Warehouse GALLERY

11-17, Konabe, Oaza, Nagano City, Nagano Pref. 380-0875

<http://naganoalternative.com>
inquire@naganoalternative.com

▶ google map / 36.665491, 138.159630



タイトル：刺客の風景
素材： 角材 鳩の羽 胡粉
大きさ：240cm×60cm×90cm
行為： 布置する物質誌



タイトル：段丘地 部分
素材： 鉄材 磁石 板ガラス
大きさ：磁石 15cm×15cm×15cm
行為： 布置する物質誌

北澤一伯 Kazunori Kitazawa

1949年長野県伊那市生れ

発表歴

1971年から作品発表。74年〈台座を失なった後、台座のかわりを、何が、するのか〉彫刻制作。
80年より農村地形と〈場所〉論をテーマにインスタレーション「圍繞地（いにようち）」制作。
94年以後2008年12月までの約14年間、廃屋と旧家の内部を「こころの内部」に見立てて美術空間に変える『「丘」をめぐる 死んだ水うさぎ』連作を制作。同期間、長野県安曇市穂高にある民家に住みながら、その家の内部を「こころ内部」の動きに従って改修することで、「こころの闇」をトランスフォームする『「丘」〜』連作「残侠の家」を制作。

その他、彫刻制作の手法と理論による「脱構築」連作として

1998年下伊那郡高森町「本島甲子男邸36時間プロジェクト」がある。地域美術界に対する新解釈として「いばるな物語」連作。

戦後の都市近郊における農業事情を読む「植林空間」。

また、生家で体験した山林の境界や土地の権利をめぐる問題を、「境（さかい）論」として把握し、口伝と物質化を試みて、レコンキスタ（失地奪還／全てを失った場所で、もう一度たいせつなものをとりもどす）プロジェクトを持続しつつ、95年NIPAF'95に参加したセルジ・ペイ（仏）のパフォーマンスから受けた印象を展開し、03年より「セルジ・ペイ頌歌シリーズ」を発表している。2009年9月第1回所沢ビエンナーレ美術展引込線（所沢）

4th街かど美術館2009アート@つちざわ土澤（岩手県花巻市）

2012年6月「池上晃事件補遺 No5 刺客の風景」（長野県伊那北高校薫ヶ丘会館）

7月「くりかえし対立する世界で白い壁はくりかえしあらわれる 固有時と固有地」連作 No7（長野市松代大本堂地下壕跡）

2015年Nine Dragon Heads(韓国)のメンバー企画として第56回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展にて展示。

同年7月、Nine Dragon Headsに参加。韓国水原市にVoid house(なにもない家)を制作した。

2016年6月「いばるな物語」連作の現場制作。伊那北高校薫ヶ丘会館

2016年10月個展「段丘地 四徳 折草 平鈴」アンフォルメル中川村美術館（長野県上伊那郡中川村）

2017年9月Nine Dragon Heads(韓国)の企画TASTE of TEAに参加。第15回イスタンブール・ビエンナーレにて「Void house (なにもない家)」連作を制作。

2017年11月ナガノオルタナティブ2017_05 北澤一伯展 場所の仕事を制作。

ナガノオルタナティブ2017「プリベンション」05、北澤一伯展「場所の仕事」は、作品の現場搬入・セッティングの構築進捗の時間をさえ作家のもたらず提示表出の極めて重要な部分と捉え、展示が完了し個展が開催する迄をも、公開することにしました。よって個展が開催する期日を限定的にもうけておりません。作家の仕事は、予定調和的・演繹的な設計図を予め用意し、構築を行うものではなく、場所と対峙し空間との照応によって折衝を重ねるものでありますので、複数回観覧いただき作家の構築の過程・思念が場所に結晶化する取り組みを含めて作品をご体験ください。